



▲学生時代の坂口さん(後列左から2人目)

**坂口** 私のオフィスには、国宝の木造十一面観音立像の写真を飾っているんですけど。何度かお参りに行ったこともあります。観音さまといえ

**市長** また、市内には130体もの観音さまがおられるといわれており、集落のお堂の中に暮らしておられるんです。村の人々が、地域の守り観音として代々お守りするといふのは独特の文化で、「観音の祈りの文化」として全国にPRしています。

**免疫学との出会い**

**市長** 先生は免疫学の研究の道に進まれて、「制御性T細胞」という今

**坂口** 母親が医者の家系だったこともあるのですが、すぐに医者になるか、もう少し勉強するかを悩んだ末、研究の世界に入りました。元々は病理学専攻で、病気の原因やメカニズムを学んでいたのですが、そのうちにだんだん免疫学に興味が出てきたんです。臨床から離れてどんな基礎的な学問に進み、そのまま何十年と経ってしまいました。

**市長** 海外でも長く研究されていたとお聞きしています。

**わがふるさと 長浜**

**市長** ふるさと長浜へようこそお越しいただきました。ご活躍の坂口先生に、長浜でお会いできることを楽しみにしております。高校時代までこちらでお過ごしだったとお聞きしていますが、ふるさととは変わりましたか。

**坂口** 長浜のまちづくりの象徴となった黒壁などはまだなかった時代ですので、随分変わりましたね。自転車で琵琶湖によく行きましたし、時間があれば伊吹山にも行きました。風光明媚で我ながら素晴らしい

いふるさとだと思っています。JR琵琶湖線のおかげで、私が住む京都と長浜は随分と近くなって、今では、長浜の高校生が京都の予備校に通う時代になりました。

**市長** 鉄道や高速道路など交通にいち早く恵まれたこの地域では、半世紀で急速に発展しましたね。黒壁ガラス館を生み出した商店街は、年間200万人の観光客を受け入れる県内随一の観光地へと成長しました。

**坂口** ふるさとが発展していく姿を、私もいつも嬉しく見守っています。

ば学生の頃、湖北の観音文化を描いた井上靖の「星と祭」が新聞に連載されました。母親が毎日楽しみに読んでいたのを思い出します。

**市長** 「星と祭」は絶版となっていました。が、「ぜひもう一度この本を湖北へ訪れる人々に届けたい」と、市内の有志が集まって、昨年の秋に復刊してくださいました。

**坂口** 素敵に取り組みですね。また読んでみたいと思います。



**プロフィール さかぐち しもん**  
昭和26年1月生まれ、長浜市曾根町出身。びわ中学校、長浜北高等学校、京都大学医学部卒業。大阪大学名誉教授、京都大学名誉教授。免疫細胞を制御する細胞の存在が否定される中、強い信念で地道な研究を重ね、制御性T細胞を発見。その功績は世界で高く評価され、ガードナー国際賞、ロベルト・コッホ賞など国内外の賞を多数受賞。昨年10月文化勲章を受章。

後の医学の発展に欠かせない非常に大きな発見をされました。医学の道、免疫学を選ばれたのは、どういうきっかけだったのですか。

**坂口** 母親が医者の家系だったこと

# 新春対談

## 「一つひとつ」が大きな力に

### 長浜市長 藤井勇治 × 大阪大学名誉教授 坂口志文



新年おめでとう  
ごうございます

新型コロナウイルス感染症の発生で世界中が大きく揺らいだ昨年。私たちが暮らしや経済への甚大な影響に翻弄される中、未知の脅威に毅然と立ち向かい、私たちの暮らしを取り戻そうと奮闘する医療従事者や研究者の皆さんの姿を見て、改めてその存在の偉大さを痛感した年でもありました。

今年の新春対談に登場していただくのは、本市出身の免疫学者である坂口志文さん。長年の医学の研究活動の中で「制御性T細胞※」の存在を突き止め、さらにその機能をコントロールする遺伝子の働きを明らかにするなど、その功績が世界的に高く評価されています。

難病克服への道を拓く発見にたどり着くまでの歩みや信念、そしてこれからの展望を、故郷・長浜での思い出を織り交ぜながら語っていただきます。

**【制御性T細胞】**  
体内に入った細菌等の異物を攻撃する免疫反応を抑制するリンパ球。免疫反応を抑えコントロールすることで、免疫系が正常な自己組織を攻撃して起こる自己免疫疾患の治療につながる。がん治療の際には免疫反応を高めたり、臓器移植の拒絶反応を抑制したりなど、幅広い分野での応用が期待されている。